

※学校評価から見た学校経営の重点と努力内容 (552名/633名)

○温かみのある学級づくり

(6) 学校に行くのは楽しいと思う 〇D 6.0P 33名 → 〇B100%を目指す

(11) 〇にめられたり、無視されることなく安心して活動できている 〇D 2.9P 11名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

(2) 授業はわかりやすいと思う 〇D 7.6P → 〇自分の教科はどうか

(3) 授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる 〇D 11.1P 61名 → 授業改善を進める

(4) 授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている 〇D 19.9P 110名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

(7) 学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる 〇B 94.6P → A+B100%を目指す

(8) 生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる 〇B 83.2P → A+B100%を目指す

(13) 部活動に目標を持ち、積極的に取り組んでいる 〇B 94.4P → A+B100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
教務・総務	▲ PTA広報の作成は負担が大きい。情報発信はWebページやメール配信に委ねて、広報誌をなくす方向で検討してはどうか。	■ 広報委員のみが過度の負担にならないよう、PTA役員会にも回り、継続の必要性について検討していく。
	▲ 校務分掌上必要でない会や、人数が少ない特別委員会等について、役割内容や分担について検討する必要がある。	■ 2学期以降の業務分担も見据えつつ、必要な修正や変更を行っていく。
	▲ テストの日や、家庭学習の日等に会議や研修が入り、定時退校がなかなか実現しない。	□ 定時退校の日には会議や研修を避け、テスト時の採点業務の時間確保に努めるとともに、無理のない日程調整を進めていく。
	▲ 校務の在り方や部活動指導、働き方改革全般に関わり、チームだけではなく、組織全体での業務改善の取り組みが必要。	□ コロナ禍前の元の状態に戻すことありきではなく、中・長期的な視点で各分掌で業務の適切な見直しを進めていく。
学習・研究	○ 自分の考えを伝え合うという点で、個人思考の時間を設けてから伝え合う活動につなげることや、学びを振り返る時間を確保することに対する意識は教師の中でも定着している。	□ 今後も継続し、教科部会で、より効果的な実践方法について共有・実践し、年末の教科実践発表にもつなげられたらよい。特に振り返りに関しては、「振り返りをさせる」段階から、「書かせて終わりではなく、思考したことをより適切な形でまとめる力をつける」段階を目指していきたい。
	▲ 共通実践項目をもう少しはっきりさせた方がよい。 ① タブレットの取り扱い ② 自学ノートの取り扱い ③ 発言のルール	□ ①一学習部のみならず、学校全体として見直し、共通認識を徹底させる必要がある。 ②一昨年度から、自学ノートの扱いは学年載量としている。生徒の実態や段階に応じて求めるレベルは異なると思うので、今後も学校共通の取組としてではなく、学年での判断とする。 ③小学校のような話型を作り全校共通で実践するというのは、教科の特性にそぐわない場合もあると思うが、ある程度、教師と生徒が共通して意識し、伝える力を高めていけるようなルールの提示については、検討していきたい。
	▲ 校内研修の充実	□ 学校研究に関わる実践や、ICTを活用した授業事例を、共有できるように、短時間でも校内研修会を開く。またTeamsを利用して、実践例を気軽に共有できるシステムを作る。
	▲ 課題の提示や居残り指導の在り方	□ 一律の指導から、個に応じた対応が必要だという意識は高まってきている。居残りがいる・いらぬの二択というより、どこまでをゴールにするのか、どのような声かけ、支援ができるのか、という視点で、学年全体で継続して対応を考えていきたい。
	○ 日頃からこまめにワーク点検を行う。	□ テスト前にまとめてではなく、こまめに点検したり宿題にする教科や教師が増えていると感じる。継続できたらよい。
	▲ 道徳の授業案の共有	□ Tサーバにワークシート等が入っているので活用してほしい。また、気軽に授業案について教師同士が相談し合えたらよい。
	▲ 3年間を見通した進路指導の流れが確立されていない。	■ 来年度に向けて、教務とも連携し、3年間を見通した進路学習について検討する。
	▲ 先生のブグトークは、学年をこえて先生方が回れるとよい。	■ 検討する。
特別活動	○ 3年生の行事や生徒会・委員会活動への関心は昨年度に比べてどれも高くなっている。	□ 相変わらずコロナでの制限はあるが、その中でできることを生徒と模索しながら主体的に行事や活動に取り組ませていきたい。
	▲ 1、2年生の学校行事への関心が少し低いように感じる。	□ 後期は様々な行事が2年生中心になるため、学年の取り組みなどで成功体験を増やし、積極的に活動に参加できる生徒を増やしていきたい。
	▲ 各委員会の活動が全体に周知されておらず、担任は当日の朝礼でいきなり知ること多い。	□ 専門委員会の翌日や生徒議会の翌日を活用して、その月の取り組みをH代表や委員会の生徒がクラスに伝えられるようにする。
	▲ 給食の片付けのルールが徹底されていない。残飯を戻す時間はもう少し早くてもよいのではないか。	■ あまり片付けの時間を早くすると、ゆっくり食べている生徒へのプレッシャーになるので、片付けの時間をこれ以上早くするのは難しいように思う。
	▲ 清掃日が少なくなったので、各クラスに廊下と同じようにモップ等を置き、整美班が活用できるようにしたい。掃除道具の老朽化が進んでいるものがある。	□ 美化委員会でもチェックはしているが、各清掃場所担当でもこまめに確認してもらい、不備があれば清掃担当につたえてほしい。

生徒指導	規範意識		
	○ ルールやマナーについての規範意識は良好。	□ 気づいたときにすぐに対応している。今後も継続していく	
	▲ 校則の変更について、教師側の意識や判断基準に差がある。	□ 身なり＝公式の場としてぶさわしい 頭髮＝清潔・学習に支障がない となっている。生徒に考えさせる指導を継続していく。	
	いじめ、不登校		
	○ 概ね安心して生活できている。いじめの認知件数が多い学年ほどあまりあてはまらないポイントも多い傾向がある。	□ アンケートの継続とデイリーライフなどでも様子を見ていく	
	▲ 不登校数は相変わらず多い。何とかしなければならぬと思う教師も多いが、困り感のない家庭や個別の事情の複雑化などすぐに改善するのは難しい生徒も多い。	□ 担任が一人で抱え込まず、複数での家庭訪問や懇談など生徒、保護者と関われる職員を増やしていく。相談係会での検討内容を各学年にフィードバックしながら、焦点を絞って検討していく。	
安全指導			
▲ 安全に対するアンケート結果は良好な数値が出ているが、生徒と教師・保護者のアンケート結果に開きも見られる。	□ 安全運転に対する指導を継続していく。生徒指導だよりやお知らせなどを朝礼や終礼で担任が丁寧に話をしていくことが大切。また、各家庭や地域との連携も図っていく必要がある。		
生徒理解			
▲ 担任は少ない時間をやりくりしながらでも生徒理解を進めている。懇談時間の確保や懇談場所の工夫など、ハード面での充実が必要。	□ 毎年のごとだが、1学期は、どうしても懇談時間の設定が難しい。2学期以降は、懇談時間を確保してもらう。また、懇談内容のC4thへの記載も係から確認をしていく。		
1年	○ 「授業に意欲的に参加している」では、97%が意欲的に参加していると回答している。その中で「よくあてはまる」が36%である。	□ できていることを認めることを継続していく。	
	○ 「授業が分かりやすい」という回答が92%いる。一方で、否定的な回答が8%（16人）いる。学習内容が難しくなるに伴い、個々の差が大きくなっている。	□ 教え合う時間や個別指導の時間を入れながら、少しでも多くの生徒がわかる授業をつくっていく。	
	▲ 「家庭学習の習慣」で「よくあてはまる」が28%と低く、身につけていない生徒が19%もいる。	□ 予習・復習で何を学習したら良いのかを、定期的に教科担当や担任から伝えていく。自分にとって何を学習したら良いのかを考え、主体的に学習する力を育てていきたい。	
	○ 「学校に行くのは楽しい」という回答が93%と高い。楽しいと感じていない生徒が7%弱いる。	□ 今後も学年職員集団で211名の生徒に関わり続けていく。QUの結果から学級経営を改善していき、学校に行くのが楽しくない生徒をいらない状態をつくりたい。	
	▲ 「学級内や校舎内外の美化に努めている」に対し、「よくあてはまる」の回答が29%と低く、否定的な回答が12%と多い。	□ 北星中学校の伝統である「校舎がきれいな」ということを意識させ、先輩の姿から清掃活動の取り組む姿勢を感じさせていきたい。	
	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている」では、96.5%が安心して生活できている。「よくあてはまる」が72%となっている。安心してできていない生徒が3.5%（7人）いる。	□ 生徒と関わり続け、生徒の様子をつかむことやデイリーライフの記述を気にして、教員間の情報共有を今後も密にしながら、積極的生徒指導の方針を継続していく。安心して過ごせていない生徒を0%にしたい。	
	○ 「部活動に積極的に取り組んでいる」では、「よくあてはまる」が72%と高い。	□ 今後も担任と部活動顧問と情報を共有しながら、認めていきたい。	
▲ 「さわやかな挨拶ができていない」に対して「よくあてはまる」が28%と低く、12.7%ができていないと回答している。コロナ感染予防対策のため、声を出す指導をあまり受けずに過ごしてきている影響もある。	□ 率先垂範で、教師も自ら爽やかな挨拶を心がけ、委員会などの活動からも挨拶の活動に取り組みさせたい。挨拶の素晴らしさを伝え続けることも大切にしていきたい。		
2年	○ 授業のルールに対する意識は、肯定的な回答が約95%と安定している。「授業のわかりやすさ」「自分の考えを持ち、自ら取り組む」姿勢についても肯定的な回答が昨年度より微増しているが、「よくあてはまる」の割合は減少している。	□ 落ち着いて取り組んでいるが、学習内容が難しくなっていることもあり、失敗を恐れたり人任せにしたりしがちであるが、できていることをきちんと認め、「できた」「わかった」感覚をもたせる。	
	▲ 「授業で自分で考えたことや・・・表現すること」については、昨年度より低下している。積極的・主体的な姿勢に弱さがある。	□ ペアや小グループの中で自分の考えを述べ合う場面を設定し、人前で話すことの訓練をしていく。	
	○ 「学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる」は肯定的な回答が多いが、それと比較すると「生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる」については肯定的な回答の割合がやや低い。	□ 前期はH代表者会の企画による活動を推進してきた。後期からは学校を動かしていくのは自分たちである、生徒会の役員は自分たちの代表であること、それぞれの活動が係だけではなく、学年全体の活動となるように呼びかけていく。	
	○ 「いじめられたり無視されたり…」については、肯定的な回答が昨年度から回を追って増加し98.8%、大部分の生徒が安心して学校生活を送っていると考えられる。	□ これからも教師間の情報共有を大切に、生徒からの相談には個々の事情をよく聞いたうえで丁寧に対応していく。	
	▲ 部活動に対して積極的に取り組めない生徒が増えてきている。	□ 2年生が部の中心になっていくことで、意識が高まる生徒とついていけなくなってしまう生徒がいる。個別に声をかけ、対応していく。	
	▲ 「さわやかな挨拶ができていない」に対し、「よくあてはまる」が16.6%と昨年度から半減している。	□ 教師からも率先して挨拶を続けることと併せて、生徒側からの具体的な取り組みを促していく。	
○ 「学校に行くのが楽しいと思う」に対し、肯定的な回答が92.4%と高い。	□ 今後も学校での活動が生徒の自己肯定感につながるよう、成功は大きく評価し、失敗は原因を考えさせ、それを明らかにしていく。中学校生活の後半につながるように、学年全教員で生徒理解に努め、情報共有しながら支援する。		

3年	○ 「授業に意欲的に参加している」では、進路を意識してからが積極的な生徒が増えているように思われる。その反面、授業の内容が難しく感じていることや進路への不安からか意欲が低下している生徒も増えており、個々の差が開いてきている。	□ 個々への細かい対応、面談などでのアドバイスを行っていく。過去問などに取り組みせ早めに課題を明確にする。
	○ 「授業で、自分の考えを持ち、…」では、考えを持てる生徒が増えている。課題を理解し、積極的に取り組むようになっている。	□ 思考の時間を確保し、考えを持てるようにした。教え合いが効果的に行われているので、考えを整理しやすくなっている。
	○ 「学級内や校舎の美化に努めている」では、昨年度より意識的に美化に努めている。ホーム代表の取り組みもあり個人のロッカールームも定期的に整理整頓できている。	□ 個人の力にまかせるのではなく、学級及び学年全体で美化に努める取り組みや雰囲気を作っていく。
	○ 「いじめられたり、無視されたり…」では、不安を感じている生徒が1%に満たない割合で、人間関係でのトラブルは昨年度より大幅に減少している。	□ 今後も、面談、アンケートや毎日の提出物などで生徒の様子を観察し、速やかに対応していく。
	▲ 「授業では、自分の考えを表現する…」では、表現できていない生徒の割合が昨年度より増えている。	□ 発表すること自体が負担に感じている生徒が増えているように思われる。基礎内容が定着していない生徒にとっては3年の内容はむずかしく感じているかもしれない。型を決めたり、タブレットでの入力を活用したり表現の方法を工夫していきたい。
	▲ 「家で学校での出来事を…」では、話していない生徒が1割以上いる。	□ 3年生として、自分の進路について自分の考えを話せるように面談などしながら指導していきたい。